

---

# 無題0001

篠崎麻琴

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

無題0001

### 【Zマーク】

Z38830

### 【作者名】

篠崎麻琴

### 【あらすじ】

少年の視点からの、ある少女の崩壊。

## (前書き)

この話を読む前に、1点注意がいるかもしれません。

この話は、はつきりとグダグダです。何が言いたいのか、自分にもわざわざわかりません。

これからこれを読む方は、その点ご留意ください。

彼女が泣いている。

そのむせぶような泣き声が、僕の耳に突き刺さる。  
繰り返す嗚咽。止まない涙。

でも僕は、彼女に何も出来はしない。

- - - - -

彼女は、この四月にこの学校に転校してきた。

元気そうな栗色の長い髪が、お辞儀と共に何とも鮮やかに美しく空を舞つた光景を、僕は未だに忘れていない。

ああ、あの頃はあんなにも美しかったのに。

この学校ではもはや日常的に行われていた暴力行為やいじめに、転校生の彼女は果敢に立ち向かった。

いじめているのが誰であろうと、いじめられているのが誰であろうと、彼女は決して差別せず、それに立ち向かったのだ。

僕から見ればそれは正当なものであつたが、いじめを行つている側からしてみればそれは面白くなく、いつしか、いじめの対象は彼女へとシフトしていった。

結果。

夏休みが明ける頃には、一人を除いたこの学校の生徒全員が、いじめ被害を受けなくなつた。

しかし、そこから除かれた一生徒とは、

果たして、彼女であった。

綺麗な栗色だつた髪は田に田にその艶を無くし、無惨に引きちぎられた  
れたような跡も見られるようになつた。

ノートが、教科書が、彼女の机から次々と無くなり、見つかるとそ

れは「ミ箱の中だつたり、落書きされていたりした。

噂によれば、放課後に体育館裏に呼び出され、集団リンチを受けた  
事もあつたという。  
結果、彼女はかつての姿を失い、ただ無惨ないじめられつ子になつ  
てしまつた。

さて、ここでは僕はある2つの告白をしなければならない。

一つは、僕が彼女の事を好きだつたという事。

もう一つは、それにも関わらず、僕は彼女を救おうとしたしかつたと  
いう事である。

僕自身も、いじめは良くない事だと考えてはいた。

しかし、実際にいじめの現場に割つて入り、場を收めるような事は  
出来なかつた。いや、しなかつた。

止めれば、いじめ集団に眼をつけられ、自分までいじめられてしま  
うのではないか、という恐怖からだつた。

自分が好きであるはずの彼女が目の前で、例え殴られていようと、  
僕はその恐怖ゆえに何も出来なかつた。

結局、僕は弱く、

彼女は強かつた。

それだけなのだ。

そして彼女はその強さゆえに傷付き、僕はその弱さゆえにまた傷付  
く事になつたのだ。

好きな人が目の前でいじめられているのにも関わらず、何も出来ない自分。

結局、彼女から目をそらしただけだったのだ。

いつしか毎日、彼女は下校中に涙を流すようになった。

それを偶然に見つけた僕は、それから毎日、彼女の後について下校するようになった。

何か、彼女のためにしてあげたくて。

学校の外でくらい、彼女を守つてあげたくて。

嗚咽しながら帰る彼女を、僕は見守る事しか出来なかつた。

ある日、いつものように彼女の後ろをついて下校している時、彼女は突然に走り出した。

びっくりした僕が急いで追いかけると、彼女は近くの公園に飛び込んだ。

僕も、急いで公園に飛び込み、すると

「来ないでッ！」

彼女がこちらを見て、鋭い声をあげた。

手にはカッターナイフが握られている。その切っ先は、まっすぐ僕に。

「毎日毎日私をつけ回して、何をする気なのッ！？　自宅を特定して、押し掛けるつもり！？」

「い、や……そん、な……」「

自分の声が震えている。

「じゃあ何よ！？」

彼女も震えていた。

「何よ！？　毎日毎日毎日毎日殴られ蹴られ、教科書ノートに落書きされて、だけどクラスメイトは見てみぬふりばかり、そんな立場の人間の事なんか、考えた事も無いでしょー！　私はもうどうにかなりそうなの！　友達はおろか、いじめを止めてくれるような人も

いない、相談できる親も教師もない、そんな人間の事なんか、あなたにわかりっこないでしよう！？

それは、彼女の心からの叫びだった。

「もう一人にしてよ！ どうせ誰も何もしてくれないんだから！ 何もしないでそこにいる位なら、この場から消えて、お願ひ！」 想像して欲しい。自分の好きな人が、髪を振り乱し、半狂乱になって叫んでいる様を。

それは 、あまりにも残酷だ。

「もう嫌なの！ にんげんの顔を見たくないの！ あっち行つてよ、ねえ！」

彼女は地面に倒れ込み、それでもなお叫んでいた。  
「あっち行け！ にんげんなんか見たくもない！ 見たくないんだよ！」

夕日が公園を真っ赤に染めている。  
その赤い公園で、ただ泣き叫ぶ彼女。  
しかし、僕に出来る事は何もない。

自分の無力を、噛み締める以外には。

(後書き)

……と、まあ。

こんな感じでございました。

先週の夜中に、2時間で打ち込んだ話です。後になつてからの推敲もしていません。

なんとなく、感情に任せてキーを打った気がします。

まあなにぶん、書いた本人がよく覚えてないのでなんともいえません。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3883o/>

---

無題0001

2010年10月18日20時45分発行